

# 800人が3000項目調査

## 岩木健康増進プロジェクト今年度健診始まる

弘前

弘前市岩木地区の住民を

の規模で行う。

対象にした大規模な追跡調査「岩木健康増進プロジェクト」の今年度健診が4日、岩木文化センターあそべーるを主会場に始まった。大手企業などの参画を含む44

今回初めて導入されたサントリーの水分量を測るブースでは、腕の筋肉に機器を当てて体の水分量を測り、健康との関係を調べるためのデータを集めた。同じく初参加の資生堂は肌の角層を採取し、弾力や色、顔の印象を調べた。他にも頭皮や毛髪、口腔、毛細血管などさまざまな面から健康調査が行われた。

健診は弘前大学COIが中心となって取り組み、今年で18年目。過去2年は新型コロナウイルス感染拡大の影響で規模を縮小したが、今年は5年ぶりに通常

8年ほど続けて参加している30代女性は「動め先の健診にはない調査項目があるので、病気の早期発見や健康づくりの参考にしてい

る」と話した。プロジェクトを運営する弘大COI副拠点長の村下公一教授は「新たな企業が加わってより幅広いデータを測定でき、今まで以上に意味のある健診になっている。住民にとって健康に関する新たな気付きとして役立つことを期待する」と述べた。

プロジェクトは2005年度に弘大、弘前市、県総合健診センターが立ち上げ、短命県返上を目的に疾病予防や健康維持につながる項目を設けて健診を行っている。21年5月からは市民の健康寿命延伸を目指す、同市、弘大などが健診で得たビッグデータを基にした市民の医療情報を匿名化し、研究機関に提供する「次世代医療基盤法」の取り組みに乗り出した。（石田紅子）



今年初導入された体の水分量と健康の関係を調べるブース